

2019年 レース結果報告

西森裕一

大会名	ASIA CROSS COUNTRY RALLY 2019			
開催日	2019年 8月 11日(日) ~ 8月 16日(金) 6日間 + レース後移動 2日間			
会場	Thailand (Pattaya) スタート → Myanmar (Nay Pyi Taw) ゴール			
天候	雨/曇 (雨季)		路面	ダート / 一般道
クラス	MOTO	セクセンNo. 26	マシン	2007 WR250F
結果	MOTO総合 11位 / 33台		全クラス総出走台数 72台	
			Moto: 33台 / Sidecar: 2台 / Auto: 34台 / Challenge: 3台	

ASIA CROSS COUNTRY RALLY 2019 へ参戦して来ました。自身初のアジア圏への渡航、国内を含めても2回目のラリーレースのためまだまだ慣れない部分も多かったのですが、今回は「DIRT SPORTS RT with Team Japan」のメンバーとして参加させていただいたおかげで、サポート体制やレース中の細かなことまで全く不安無くラリーに集中することが出来ました。

24回目を迎えるアジア最大のラリー2019年大会はタイ王国のパタヤからスタート、6日間で約2200kmを走破してミャンマー連邦共和国の首都ネピドーでフィニッシュします。レース中の国境越えや、8月は雨季となるため増水による水没の心配もあるとの事前情報もあり、冒険にでも行くかのような期待と不安の入り混じるレースでした。

今期活動のメインとして準備も進めて来ましたが、少し残念だった点としては車両が手持ちのWR250Fとなってしまったことです。レース内容やコース設定も考えるとハイパワーな450ccがベストと思われますがそこまでの準備には至りませんでした。とは言え事前の車両整備はしっかり行ったので最大限のパフォーマンスを出してくれたと思います。大きなトラブルも無く最後まで走り切りました。



最悪の可能性として水没も想定した携帯ツール類はいつもより多めになりました。ツールはリアフェンダーに取り付けたバッグに入れて走りましたが気になる重さも無かったので今後はこの内容にするつもりです。

その他いつものファーストエイドキットに今回はポイズンリムーバーを追加しました。虫刺されやヒルに噛まれる場合もあるとのことで準備しましたが一度も使うことはなく済んだので良かったです。



Roof of Africaのようなハードエンデュアロではないのでエナジー補給は途中のサービスピットでの補給をメインとして高カロリーを持って走るとは不要でした。もしもの遭難も少しだけ想定してチョコバー等をバックパッグに入れておきました。コースのまわりで全く人や民家がなくなるエリアは多くないため不要かも知れませんが1度遭難を経験すると心配性になるのでしょうか...

今回日本から現地までは1人での移動となりました。チームのメンバーともパタヤのオフィシャルホテルで合流します。せっかくなので途中のバンコクで1泊、パタヤに入ってから別のホテルで1泊してリゾート気分を満喫しました。しっかりとリフレッシュしてレースに集中するつもりでしたが、なかなか旅行気分から切り替えできずに苦勞しました。慣れないことはしない方が良さそうですね(笑)



パタヤホテルのRooftop pool

オフィシャルホテルに着くと駐車場がパドックとなっていてすでに各チームのテントが並んでいました。まずは1か月前に送り出していたマシンと部品を受取ります。特に問題なく到着していたので一安心です。軽く点検と整備を行って受け付けと車検を済ませます。余裕のあるうちにガソリンスタンドに給油に行きながらラシーメーターの動作確認もしておきました。マシンは問題なし。あとはスタートを待つのみです。



イベント開始前夜には大会スポンサーであるサングレラ主催のWelcome Partyに招待いただきました。生演奏のゆったりとした雰囲気の中で各チームの紹介もあります。お揃いのチームシャツで壇上に上がりました。実はほとんどのチーム員とは面識もない状態で参加させていただいたので、このパーティーでこれから一緒に旅をするチームメンバーとも親睦を深めるきっかけになりました。



大会イベント初日となる8月10日LEG-0はビーチリゾートの街パタヤでのパレード走行から始まります。ビーチ沿いは人も多く、特にパレードの中心となるWalking streetは賑わいも凄くパワー溢れる街でした。1人ずつ名前を呼ばれて繁華街の中を走って行きます。気持ち的にも一気にレースモードに突入します。次の日は早朝からラリーのスタートです。



8月11日LEG-1 いよいよラリーのスタートです。ホテルからスタートするので四国TBIのように TENT をたたんだりする必要も無く、朝の準備は余裕を持ってできました。チームのサポートカーもいるので何か不具合が起きても中間サービスエリアまで行けばなんとかなるという安心感もあります。海外レースという気負いもあり、6日間のラリーをスタートしました。



ホテルパドックからのスタート直前

AXCRではまず100km前後のリエゾンを走りSSスタートポイントに到着します。時間になったら1人ずつSSスタートして行き前半SS約100km、中間サービスエリアを挟んで後半SSも約100km、最後にリエゾン100kmほどを走ってその日のホテルに到着します。日によって距離の違いはありますが基本的にはほぼ同様のパターンでした。



SSスタート時間待ち

ルートはコマ図を頼りに進んでいきます。ラリーメーターの距離とコマ図に書かれた情報、それらを実際の地形と照らし合わせて判断するのですが、これがなかなか難しいのです。

特にコマ図に書かれた曲がり角や横道がどれを指すのか？市街地はまだいいのですが森の中に入ってしまうと全くコマ図についていけずに1日に数回は迷ってしまいました。

タイヤの跡をトレースしても前のライダーの迷った跡だったりもするので、やはり自分を信じて確実に進むしかないようです。当然走るペースも落ちてしまうのですが現状のスキルでは仕方ありません。このコマ図読みが今後の大きな課題となりました。



矢印マーカがあると安心します



今回の車両装備としてはICOMラリーメーターを1つ追加してラリーメーター2個使いとしました。メインメーターでコマ図の距離を見てサブメーターを燃料航続距離確認とするか、それともコマ図からコマ図の区間距離を確認するか等と色々考えていましたが、なんとレース初日に片方のメーターが動かなくなっていました。原因はおそらくセンサーの不良ですが距離表示が止まったままで全く役に立たない状態です。ラリーメーター2個使いとしていて助かりました。やはりどんな不具合が起きるかわからないのでメーターは2つ使ってセンサーもそれぞれ別にするのが確実に完走するための基本セットアップとなりそうです。

ラリーレース参戦2回目の初心者ですが5月に走った四国TBIも6日間だったのである程度の経験値はあるつもりでした。しかし今回のAXCRで1番うまくいかなかった点が長距離SSへの対応でした。毎回気合を入れてスタートするのですが、SSの距離も時間もかなり長かったので集中力の維持が出来ずにペースを下げってしまうことが多かったです。

特に速度制限のある村の中を走ったり、森の中でルートを見失って皆で迷ったりしているとレースモードが切れてしまっていてその後の走りにも大きく影響しました。特にタイでの前半3日間は1日の中でのペースをつかむのに苦労しました。



中間サービスエリアでは必死にマップ巻き替え

当たり前ですが日本では考えられないような規模とルート設定です。「こんなところを全開で走れたらいいのに」というような場所をSSとしてまさしく全開で走ります。オフロードライダーには夢のような6日間といえるでしょう。

地平線に向かって全開で走るというものとは違って、日常の中で爆走するイメージでしょうか。SS中であっても完全に封鎖はされてないので他の車やバイクとすれ違う場面も多くあります。もちろん地元の人を優先しながらも、全開! みたいな(笑)

警察も出てますがラリー車はどんどん走らせます。日常でありながら非常識が許される。不思議な感覚でした。

また、ロードマップが長すぎて1日分が入り切らないために中間サービスエリアで巻きなおす必要があったのですが、決められた作業時間が短くて移動時間も入れると実質数分ほどしかありません。次のスタート時間に間に合わずにペナルティを加算されてしまってガッカリします。

3日目LEG-3ではSSタイムは4番手のはずがこのペナルティが加算されて10位の結果でした。リザルトを確認すると他のライダーはペナルティ加算されていないので「マップ巻きのスピードも必要か!」と気づいてからは必死で巻いてなんとかペナルティ無しになりました。



ミャンマーへの国境越えから始まる8月14日LEG-4 は雨による水害の影響があるとのことでまさかのレースキャンセルとなりました。この日は次のホテルまでレース関係者でコンボイ大移動です。国境での入出国手続きも大人数で混乱状態でしたが問題なく通過。ミャンマーへ入国する橋の上で車線が交差して右側通行になります。まずは無事に国境越えができて一安心です。すぐに換金所に行きミャンマーチャットを手に入れておきます。



タイ出国渋滞



無事にミャンマー入国

その後の移動路では完全に浸水状態で深い所では水没しそうな場面もありました。「このラリーで一番緊張した!」との声も多かったです。たしかにレースどころではなさそうな状況です。大型トラック等は動けずに大渋滞となっていました。主要道路のため地元の人たちの移動も大変そうです。

LEG-5以降のレースも出来ないのでは?と心配しましたがサポートカーや関係者も無事通過することができたので残り2日間は予定通りに開催することになりました。気を取り直してレースの準備をしてミャンマーパートに臨みます。



道からそれると水没です



車は大渋滞



地元の人は何事もないように走ってます

8月15日 LEG-5 ミャンマーでの最初のSSはモン族の村を通る23kmのターマック! でした。若干湿った部分もあって滑りやすそうなコンディションでしたが村の人たちが総出で応援してくれているので手を抜くわけにもいきません。可能な限りアクセルを開けて走りました! 徐々に1日をまとめるペースもわかって来て、この日の順位は5位。少しずつですが上位に上がって来ました。



SSスタートポイントのすぐ横の家族
スタート待ちしていたら甘いお餅をくれました



ターマックのみのSS

あっという間の最終日 8月16日 LEG-6 です。SSのスタートポイントには大勢が観戦に来ていました。この日前半のSSはハイウェイ横のダート路で、そのほとんどが直線というレイアウトをひたすら全開です。メーター読み140km/hで走り切って3番手のタイムでした。大排気量車もいる中で250ccでの結果としては十分満足なものでした。SSゴールするといきなりトラックに載せられての移動です。コマ図には書かれてなかったので少し焦りましたが次のSSスタートポイントまで運んでくれました。



大勢の観戦の人たち



SSスタート10秒前!



いきなりのトラック積み込み



牛になった気分です

そして大会最終のSS。コンディションの悪いエリアがカットされてかなり短めの15kmという距離設定となっていました。しかもアップダウンとがれた路面もあったりと、日本のクロスカンтриーで走り慣れたコンディションに近かったので「ココで行くしかない!」と気合を入れて攻めました。結果は嬉しいトップタイム! この日の前半SSと後半SSのトータルタイムでもトップとなったので最終日LEG-6の1位を取りました!



最終SSを走り切って

6日間の総合順位では目立つものではなかったのですが1日だけでも1位を取れたので少しは目立つ結果を残せたかと思っています。



洗車中は休憩



仕上げは丁寧にスポンジで洗いです

SSゴールからのリエゾンの間に洗車場を見つけてマシンをキレイにします。タイもミャンマーもバイクの洗車は全てお任せで待っていれば完璧に洗ってもらえました。しかもトドコロで大変なのにかかなりの安価です。日本にもこのサービスが欲しいですね。

ガソリンスタンドのない村でもペットボトルに入ったガソリンはどこでも買うことができます。ただしハイオクは無さそうなのと品質の保証もないのでルートで迷ったりしてガソリンが足りなくなった時などに限ります。



フィルターを使って入れてくれます

ラリー中のもう一つの楽しみがその時に一緒にいたライダーとの食事でしょうか。ローカルの食堂を見つけて食べるのですが、全てが美味しかったです! しかも安い!



レースが終わったあとは超巨大な政府施設での表彰パーティーでした。個人成績はMOTO総合11位で入賞は出来ませんでしたが、チーム成績は3位の結果でした。



初めてのAXCRでしたが、次から次へと色々な出来事があって非常に充実した6日間でした。単にスピードを競うレースと捉えていたら楽しめなかったかも知れません。実際初日の自分がそうでした。SSの中でタイムを競っているはずなのにペースを落とさなければならない状況があることに戸惑いました。コースの変更や予定にない移動、ルート途中での洗車や食事、森で迷った時にも嫌にならずに全てを楽しんでこそAXCRと感じました。そうすることでペースを保ちレース感も落とさない走りにつながり結果もついて来ると思います。何よりもこの大会を楽しんで走り切るマインドを今回つかめた気がします。それだけでもこのラリーに参加して良かったと思えるほどの満足感があります。

今後の予定は全く決まってませんが、また出てみたいと思える魅力ある大会でした。

応援、サポートいただきありがとうございました。